

北朝鮮や中国の核兵器と「ダモクレスの剣」

高井 晋

平昌冬季オリンピックを機に、朝鮮半島の非核化という妖怪が頭をもたげ、それ以降、南北間の首脳会談、中朝間の首脳会談を経て、米朝首脳会議が予定されているという。米朝首脳会談は、当初の予定が変更されるようであるが、早くも核兵器の廃棄をめぐる米朝間の駆け引きが始まった。小国の北朝鮮が、核兵器を保有したとたんに中国、米国、そしてロシアと並んでパワーゲームのアクターになれるほど、核兵器の保有は大きな影響力を持つのである。

北朝鮮は、地震のために崩壊したと言われる豊溪里の核施設の破壊を限られた外国メディアに公開し、非核化を率先している印象を与えようと躍起になっている。核施設の一部を破壊したところで、核廃棄の検証は困難であるばかりか、核兵器技術や知識までを廃棄しえないことは言うまでもない。大方の予想通り北朝鮮は、「朝鮮半島の非核化」の美名の下に時間稼ぎをしているのである。核兵器と運搬手段を獲得した国が核兵器を廃棄した例がないことは、周知の事実である。やがて北朝鮮は、核ミサイル技術の輸出を再開すると思われ、かろうじて維持されてきた「核拡散防止条約」（NPT）の体制はもろくも崩れ、核兵器が世界に拡散していくことは、火を見るより明らかであろう。

「ダモクレスの剣」は、ケネディ米国大統領が 1961 年に国連演説を行ったことから、核兵器の恐怖に警鐘を鳴らす用語として知られるようになった。すなわち、「世界中の人々が、核というダモレスクの剣の下で暮らしている。か細い糸でつるされたその剣は、事故か誤算か狂気（by accident or miscalculation or by madness）により、いつ切れても不思議はないのだ。」日本は、北朝鮮や中国の核兵器を、いつまで「ダモクレスの剣」として甘受しなければならないのだろうか。

わが国は、NPT 条約の下で核兵器を保有せず、核兵器廃絶を目指す核政策を採ってきた。その一方で、わが国周辺に核保有国が存在することから、現実の核兵器の脅威に対しては、日米安保条約の下で米国の「核抑止」に依存してきた。換言すると、日本の核政策が有効に機能するのは、米国の意思次第であるとも言えよう。わが国は、世界第 3 位の経済大国でありながら、常に「ダモクレスの剣」に打ち震える国家として存在しなければならないのだろうか。

このような東アジアの核環境の下、この度、SSRI の研究員有志が総力を挙げて検討し、従来の核政策の延長線上にある「日本の核戦略」として上梓されることが決まった。「ダモクレスの剣」を克服するための核戦略である。本書では、核兵器に関連する基礎的な知識が網羅され、核保有国の核戦略を歴史的に俯瞰することで、わが国の核戦略が導き出されている。その内容に大いに期待して頂けたら幸いである。

(2018 年 5 月 27 日)